

連絡先:〒700-0905岡山県岡山市北区春日町5-6 岡山県労働組合会議内 いのちと健康を守る岡山県センター
TEL086-221-0133 E-mail:okakenro@mx1.tiki.ne.jp URL:http://ww1.tiki.ne.jp/~okakenro/karoshi.htm

いのちと健康について学び、運動を強めよう！

講演とパネルディスカス、4分科会に中四国から133人が学ぶ

第11回働くもののいのちと健康を守る中四国ブロックセミナーは、8月31-9月1日山口市の湯田温泉ホテルかめ福で開かれ、133人が参加。

山口県実行委員会委員長の田中礼二弁護士が「働く人のいのちと健康について学び、交流を深めましょう。ILOの暴力とハラスメント条約が成立したが、日本の法律ではハラスメント禁止規定、制裁規定などがなく、批准できる状況ではない。こうした規定を含む法の水準を高め、条約を批准するよう政府に求める運動を強めよう」と挨拶しました。



挨拶する田中実行委員長



関野教授の記念講演

記念講演「働き方の現実と私たちにとっての真の働き方改革」

— 関野秀明 下関市大教授 —

本当の働き方改革と社会保障の充実— 職場と政治を変える闘いを

続いて関野秀明下関市大教授が記念講演。アベノミックの下で賃金低下、長時間労働、貧困の増大など拡大している。さらに裁量労働制、高度プロフェッショナル制、欺瞞の「同一労働同一賃金制」などを進めようとしている。また医療、福祉、保育など社会保障制度も切り捨てが続き、企業依存の非人間的労働を断れない、現代の「奴隷」労働となっている。職場を変える闘いと政治を変える闘いを結び付けようと話されました。



パネルディスカス「長時間過重労働是正を職場から」

医療、教職員、運輸の実態とたたかいを報告

パネルディスカスでは医療、教職員、運輸労働者の実態を報告し討論しました。

①教職員の長時間労働で、中学校では約6割が月80時間以上の時間外労働で過労死ラインを超えている。授業増、学力テスト対策、部活などが要因だ。人員増、業務削減などが必要だが国はその措置をしない。教職員の長時間労働は社会的問題で、増員を求める。

②医療現場では夜勤・交代勤務、長時間労働、約95%が疲労を感じ、「辞めたい」と6割以上が回答している。ミスが増加など安全・安心の医療が崩されている。増員、夜勤改善などの運動をしている。

③JRでは、殆どの職場で4～15時間半の変形労働制で、保線業務は深夜が多く4時間もの「休憩」がある。

バスの運転手は1日の拘束時間が16時間にもなっている。改善を求め闘っている。



第1分科会



労働安全衛生の基礎講座
講師・野田浩夫医師（医療生協健文
会理事長）

第2分科会



長時間・夜勤労働と職場の運動
特別報告・三上文子氏（全日赤
島書記長）

第3分科会



職場でのハラスメントをなくすために
助言者・鴨崎義春氏（山口大学教職
員組合参与）

第4分科会



職場のメンタルヘルス
助言者・永岡元博医師（医療生協健文
会精神科）



懇親・交流会での
参加した各県の紹介、訴え



懇親交流会を盛り上げた
山口大学マンドリン部の演奏

いのちと健康をまもる中四国ブロックセミナーの経緯と運営

一、ブロックセミナーの経緯

1. いのちと健康をまもる全国センターは、安全衛生活動の教訓、経験の交流や活動家の養成などをめざし、1999年以降「働くもののいのちと健康を守るセミナー」として日本の東西で、05年からは各ブロック別で開催。中国ブロックでは05年から中国5県で開催されてきました。
2. 08年全国センターは、ブロックセミナーの発展、地方センターの確立の目標を方針に追加し、ブロックとして中四国を区分。この区分によることや幅広い経験や教訓などを得るために中四国ブロックとして開催し、2009年第1回高知、10年香川、11年山口、12年愛媛、13年広島、14年岡山、15年山陰、16年高知、17年徳島、18年香川、19年山口での開催となりました。

二、ブロックセミナー実行委員会の運営

こうした経緯を踏まえ、運営は各県代表者による実行委員会の協議により、現地実行委員会で作業をすすめる体制としています。実行委員会は①セミナーの準備、②セミナーの発展、③各県の活動の交流、④地方センターの確立を位置づけて運営することをめざしています。